



フォルトゥナ通信

➡ FORTUNA AKTUELL - Japanese Version



ラストスパートで11位フィニッシュ。

➡ NACH DEM ENDSPURT AUF RANG ELF

選手インタビュー アペルカンプ真大 (U17)

➡ INTERVIEW MIT SHINTA APPELKAMP

多くの日本チームがフォルトゥナと対戦

➡ VIELE JAPANISCHE TEAMS ZU GAST BEI FORTUNA

U19デュッセルドルフ国際サッカー大会

➡ U19 CHAMPIONS TROPHY





premiumPARTNER

全ての走りに、驚きを。



TOYO TIRESのモノづくりは
いつでも「驚き」を追い求めています。
驚いて笑い、驚いて泣き、驚いて喜ぶ。
人の心を動かす「驚き」がなければ、
ドライバーの想いに応えるタイヤは作れないと
考えているからです。
ユニークな発想力と革新の技術力で、
世に出してはじめて、欲しかったことがわかるタイヤを。
誰も想像しなかった、常識を覆す性能のタイヤを。
私たちTOYO TIRESは自問し続けます。

SURPRISING THE WORLD

www.toyo.de | [f/ToyoTireDeutschland](https://www.facebook.com/ToyoTireDeutschland)

TOYO TIRES
driven to perform

親愛なる日本人社会の皆さまへ

Liebe japanische Gemeinde,

フォルトウナ・デュッセルドルフ トップチーム世話係 アレクサンダー・シュペングラー

Aleksandar Spengler, Mannschaftsbetreuer

私はベオグラード(セルビア共和国)にいた幼少期から日本の大ファンでした。友達と一緒に日本大使館に遊びに行き、様々な写真や絵を貰うのがとても好きだったんです。フォルトウナでは1990年からチームの世話係の仕事を始めて今年で27年になりますが、その間には何人もの日本人選手がこのクラブでプレーしました。残念ながらまだ中心選手として活躍した選手はいませんが、現在トップチームに所属している金城ジャスティン俊樹も可能性を秘めた素晴らしい選手ですし、今後チームで活躍出来るようになってくれることを願っています。

デュッセルドルフで暮らす者として、もちろんこの街の日本社会のことは良く知っています。インマーマン通りの近くにある日本食レストランにはときどき行きますし、今はなくなりましたが、オーバーカッセルにあったレストランでも日本食を食べるのが楽しみでした。日本人は皆さんいつも友好的で、とても心地良く思っています。そんな日本人の皆さんにもっとフォルトウナを応援していただければ嬉しいです、我々のホームスタジアムESPRITアリーナでより多くの日本人サポーターを見ることができれば、この上ない喜びです。是非皆さんのことを、スタジアムでお待ちしております。



Impressum



Herausgeber 発行元:
Fortuna Düsseldorf 1895 e.V.
Flinger Broich 87
40235 Düsseldorf

Leitung 情報管理:
Kai Niemann (medien@f95.de)

Chefredaktion 編集長:
Gengo Seta (japandesk@f95.de)

Fotos 写真:
Christof Wolff

Layout レイアウト:
Christian Lewandowski
(www.derlewan.de)

Druck 印刷:
Clasen GmbH

ベブーの決勝ゴールで後期初勝利！

Bebou schießt Fortuna zum ersten Sieg der Rückrunde!

2016/17シーズンの後期リーグは、再開から5試合で3敗2分と勝ち星から見放されていたフォルトゥナ。それでもVfLボーフムと対戦した第23節、1点のビハインドを負ったチームは、ローヴェン・ヘニングスとイラス・ベブーの得点で逆転に成功し、2017年初勝利を挙げることに成功した。

後期開幕からSVザントハウゼン(0-3)、VfBシュツットガルト(0-2)に複数失点で敗れたフリードヘルム・フンケル監督は、カイザースラウテルン戦でディフェンスラインにテコ入れを決断し、ケヴィン・アクポグマとカーン・アイハンがセンターバックを組むことに。試合は前半から積極的に攻めるフォルトゥナだったが、しかし多くのチャンスを活かしきれないと、後半早々にコーナーキックから先制点を許してしまう展開。それでも攻勢を続けたチームは、失点の5分後にマセル・ゾボトウカの得点で同

点に追いつくことに成功。逆転こそできないも、次節に期待できるパフォーマンスを披露したかに思えた。しかし、続くSpVggグロイター・フュルト戦と1.FCハイデンハイム戦では、再び決定力不足を露呈。2試合通じて無得点のチームは、勝ち点1点の獲得に留まってしまった。

第23節は“ヴェストダービー”と呼ばれるVfLボーフムとの一戦。試合は立ち上がりからヘニングスを中心にボーフムゴール前で続けざまに決定機を作り出したフォルトゥナだったが、相手GKマニユ

エル・リーマンの牙城を崩すことができない。すると再び前半終了間際に失点を喫し、ここまでの悪い流れが出てしまう。しかしアウェイまで駆け付けたサポーターの大声援を受けて後半が始まると、ついにエース・ヘニングスが沈黙を破るゴールを決めることに。その後は激しい力と力のぶつかり合いとなったが、ロスタイムにペナルティエリア内でベブーが倒されてPKを獲得。このチャンスをベブー自らが決め、これによりフォルトゥナが待望の2017年初勝利を挙げることに成功した。





ヘニングスが古巣相手に大爆発。

Beste Leistung von Hennings gegen seinen Ex-Club

アイントラハト・ブラウンシュヴァイクを迎え撃った第24節は、前節の逆転勝ちの勢いそのままに、ボアムートが先制ゴールを挙げることに成功する(37分)。さらに後半立ち上がりにもベブーが相手ゴールネットを揺らすも、これはオフサイドの判定で認められない。すると後半は昇格レースを繰り広げる相手チームの反撃を許し、2点を献上するとともに、逆転負けを喫する結果となってしまった。

連敗は避けたいフォルトゥナ

は、アウエーでカールスルーエと対戦。ヘニングスにとっては古巣対決となったが、そのエースが好パフォーマンスを披露。26分、カウンター攻撃からルーカス・シュミッツのセンタリングに合わせて先制ゴールを奪うと、その3分後には自らがキッカーを務めたコーナーキックが相手DFのオウンゴールを誘発し、2点のリードで前半を折り返す。後半に入り、カールスルーエの猛攻を受けるもこれを凌ぐと、試合終了間際には再びヘニングスが決めて3-0。エースが2

得点1アシストの活躍で、フォルトゥナの快勝となった。

2週間の代表ウィークを挟んで1860ミュンヘンと対戦したフォルトゥナ。前半をスコアレスで折り返すと、後半10分、セットプレーから先制点を奪われてしまう。その後も素早いカウンター攻撃に手を焼いたが、守護神GKミヒャエル・レンジングを中心に堅守を見せると、反撃のチャンスを伺う展開。しかし最後までゴールが遠く、この試合では勝ち点獲得には至らなかった。

3試合4得点5失点で、獲得勝ち点は2点に。

4 Tore und 5 Gegentreffer bringen in 3 Spielen nur 2 Punkte

得点不足を解消しつつあるフォルトウナは、DSCアルミニア・ビーレフェルト戦から3試合連続で得点を挙げる。しかし一方で失点をゼロに抑えることができず、その結果、獲得勝ち点は2点に留まることに。

2017年に入り、勝ち星を重ねてきたビーレフェルトとアウェーで対戦した第27節。試合は前半に相手に先制を許すも、ベブーが再三好機を演出すると、39分にそのベブーからのセンタリングをアイハンが決めて同点に追いつくことに成功する。しかし後半、ゾボトゥカがペナルティエリア内でファールを犯し、2枚目のイエローカードで退場になるとともに、このPKを決められ、結局1-2の敗戦を喫することに。

今季の昇格争いの一角を担ったウニオン・ベルリンとの一戦は、相手に2点を先行される厳しい試合展開。それでも諦めない選手たちは試合終盤に連続してゴールネットを揺らすことに。まずはベブーのセンタリングが相手に当たってオウンゴールを誘発すると(80分)、ロスタイムには途中投入されたエズカン・ユルドウルムが、ベブーの折り返しを頭で押し込み同点に。敗戦濃厚と思われた試合を



追いつき、勝ち点1点を得る試合となった。

試合後の記者会見でフンケル監督が「今シーズンのベストパフォーマンスだった」と語ったドレスデン戦では、その言葉の通りフォルトウナが前半から相手を圧倒すると、ガートナーのが先制点の獲得に成功する(17分)。その後も勢い

そのままにシュートチャンスを作り続けたフォルトウナだったが、相手GKやゴールポストにも阻まれ、なかなか追加点が奪えない。すると77分に一瞬の隙を突かれ、同点ゴールを決められてしまう。その後は相手の堅守を崩せず1-1でタイムアップを迎え、勝ち点2点を取りこぼす結果となってしまった。





ラストスパートで11位フィニッシュ。

Nach dem Endsprint auf Rang elf

足踏み状態が続くフォルトウナにとって、第30節のザンクトパウリ戦は、さらに試練を大きくする試合となった。キックオフから5分、ここまで堅守を支えてきたアクポグマが、相手選手との接触により脊椎骨折の重傷を負ってしまう。その後試合は、アダム・ボツツェックとアンドレ・ホフマンが退場するなど大荒れの展開となり、1-3での敗戦となってしまふ。怪我人や出場停止で選手総動員となった翌週は、アウエーでハノーファーと対戦。18歳DFのグルカン・ギェルがフォルトウナデビューし、好パフォーマンスを披露するも、昇格候補相手に一步足らず、この試合も残念ながら0-1で落としてしまふ。

いよいよ残留争いも佳境に差し

掛かり、大一番となったのは第32節のヴュルツブルガー・キッカーズ戦。フォルトウナ同様に後半戦に取りこぼしが続く3部からの昇格クラブだったが、試合はまさかの先制ゴールを奪われる展開に。この試合に敗れると後がなくなるフォルトウナは、最後の力を振り絞って反撃を仕掛けると、後半ロスタイムに奇跡が起こる。ユリアン・シャウエルテの蹴ったフリーキックは相手ゴール前の密集を超え、GKの手を掠めてそのままゴールイン。劇的な同点劇でラスト2試合に希望を繋ぐこととなった。

13位のフォルトウナから17位のビーレフェルトまでが勝ち点3差にひしめいた状態で迎えた第33節、フォルトウナはアウエーでニュルンベ

ルクと対戦。大雨の中でキックオフを迎えると、試合は激しい点の取り合いに。しかしこのシーズンゲームを制したのは、88分のマドルンクのヘディングシュート。2試合連続のラストミニッツゴールで3-2の勝利を収め、残留に向けて大きな一歩を踏み出すこととなった。

そして最終節、37320人が詰めかけたホームでのアウエ戦では、開始から攻勢に出たフォルトウナが、勢いそのままにガートナーのゴールで先制を奪う展開。その後も終始試合を優位に進めると、そのまま危なげなく勝利を収めることに成功。ラストの3試合で勝ち点7点を獲得したフォルトウナは、最終順位を11位で2016/17シーズンを締めくくる結果となった。







LAST MINUTE GOAL

VS. 1.FC NÜRNBERG





アペルキャンプ真大
U17 / SHINTA APPELKAMP

アペルカンプ真大 Shinta Appelkamp

U17チーム所属のアペルカンプ真大(16歳)にとって、今季は飛躍の1年となったはずだ。シーズン序盤にゲームキャプテンに指名され、キャプテンマークを巻いてチームを牽引した16歳の日独ハーフは、今年3月にはU17日本代表から初招集を受け、アメリカ遠征にも参加しただけでなく、その後はU19チームでもデビューを果たしている。そんな“シンタ”にこの1年を振り返ってもらった。

まずは今年はどんなシーズンだったかな。

開幕当初はチームも好調で勝ち星を重ねていたけど、12月あたりから怪我人が多発してしまい、下の学年の選手たちも加えなくてはならない状況になって勝てない試合が増えてしまいました。それでもチームメートとの関係は良好だったし、監督コーチ陣ともしっかり話し合いながら、チームを好転させることができたと思います。

今季は主にキャプテンとしてプレーしてきたわけだけだ。

本来のキャプテンのドミニク(チカッチ)がシーズン序盤に負傷し、長期離脱することになったため、シジッチ監督からゲームキャプテンに指名されました。自分はキャプテン向きじゃないので、最初はあまり前向きではなかったのですが、任された以上チームを引っ張らなくてはという自覚が芽生えましたし、勝てない時期は責任も感じました。そういうときは意識的に練習の時から選手間で喋るようにしようと心掛けてました。

そんな中、U17日本代表から初招集されたよね。

日本にいたころから代表チームというものは目標でしたし、やはり代表のメンバーはいつも意識して見ていました。ドイツでプレーしていても、こうやって選んでもらえたことはすごく嬉しかったですし、チャンスを活かさなくちゃと強い思いはありました。

U17代表チームに合流してみてどうだったかな。

チームに合流した最初は少し緊張しましたが、練習や移動などを通じて選手たちともコミュニケーションが取れるようになってからは問題なかったです。日本代表チームのユニフォームを着れることはもちろん、U17ア

メリカ代表と対戦できたことも本当に良い経験になりました。フォルトウナに戻ってもそれを活かそうと思って意識しています。

U19デュッセルドルフ国際サッカー大会以降、U19チームでのプレー機会を得ているよね。

そうやって飛び級でチャンスを貰えることは嬉しいですし、年上の選手たちとプレーすることもすごく良い経験になります。U19年代は遥かにテンポも速いし、相手の寄せやフィジカルもレベルが高いと感じました。(4月30日の)残留を決めたミュンスター戦では、2点リードを許したところから3-2の逆転勝利となりましたが、そういう精神力の部分も学ぶことができましたし、この試合でスタメンフル出場できたことも自信になりました。

フォルトウナでプレーできていることの良さは？

監督コーチやアカデミースタッフに評価してもらえ、飛び級でチャンスを貰えることは大きいと思っています。学校などのサポートも充実しているし、とても感謝しています。他のカテゴリーに3人の日本人選手たちがいることも心強いですし、特に日本デスクの存在は大きなアドバンテージだと思っています。

自分の長所と課題は何かな。

U17日本代表やU19チームでプレーしてみて、技術の面では問題ないと感じたし、ボールを持っているときはしっかりとゲームメイクに絡んでいくことができることが分かりました。そういう自分の持ち味はこれからも出していきたいです。一方でフィジカル面はもっともっと伸ばさなくちゃいけないし、競り合いも勝てない部分が多かったです。守りの時間が続くと体力的にもきつくなるので、その部分も改善しないといけません。

将来的な目標を教えてください。

まずはU19チームでキープレイヤーにならなくてはと思いますし、その先にはもちろんトップチームで契約を勝ち取ることを目標に考えています。それから今後も年代別の代表チームを意識していきたいですし、また呼んでもらえるように努力しなくてはと思っています。

最後にこのクラブをアピールしてくれるかな。

デュッセルドルフの皆さんには、このクラブを是非もっと応援して欲しいです。それだけでなく、日本でも皆さんにもっと知ってもらえれば嬉しいです。フォルトウナを有名にするために、ボクももっともっと頑張ります！

Shinta Appelkamp



- ➡ 所属: U17チーム
- ➡ 生年月日: 2000年11月01日
- ➡ 身長: 174cm
- ➡ 体重: 63kg
- ➡ 国籍: 日本/ドイツ
- ➡ 加入年: 2015年
- ➡ 出身地: 東京
- ➡ 現住地: デュッセルドルフ

全日本大学選抜とテストマッチ。

Testspiel gegen japanisches Universitäts-Auswahlteam

フリードヘルム・フンケル監督は3月8日(火)、出場機会の限られている選手たちのために、全日本大学選抜とのテストマッチを行った。試合はマーロン・リッターのゴールでフォルトウナが先制したが、後半に入ると3失点を許し、1-3で敗戦となった。なおこの試合では、金城ジャスティン俊樹がボランチでフル出場だけでなく、後半にはU23チーム所属の橋本峻弥も出場した。

試合はまず、大学選抜がチャンスをつかむ。ジャーメイン良が裏に抜け出し、GKラース・ウナシュタールの頭上を抜くループシュートを放つも、これはアンドレ・ホフマンがアクロバティックなプレーで掻き出し、失点は免れる(4分)。逆にフォルトウナも8分、エマニュエル・イヨハが左サイドから抜け出すと、GK小島亨介と1対1のシーンを迎える。しかしこれは相手GKのファインセーブにより、得点は奪えない。再び攻勢に出た大学選抜は12分、名古屋新太郎がミドルシュートを放つと、続けて重廣卓也も決定機を得るが、どちらもウナシュタールが安定したパフォーマンスを見せる。

すると37分、フォルトウナが先制ゴールを挙げることに。左サイドを突破したアクセル・ベリングハウゼンがセンタリングを上げると、リッターが技ありのヒールシュートでゴールネット揺らすことに成功する。前半はその後も激しい攻防が続いたが、新しく得点が生まれることはなく、ハーフタイムとなった。

後半は、ベリングハウゼンに代わって左サイドに入ったU23チームのタオウフィック・ナシリのミドルシュートで幕を開ける(49分)。しかしその後は再び積極的に大学選抜が攻撃を仕掛けてくると、52分には脇坂泰斗が、59分には山口一真がそれぞれ決定機を掴

む。一方フォルトウナも62分にアリアント・フェラティが反撃のシュートを放つも、追加点には至らない。

すると65分、大学選抜はサイド攻撃から、最後は中央で旗手怜央に合されて同点ゴールを奪われると、69分にも米田隼也のアシストから脇坂がゴールネットを揺らし、逆転を許してしまう。同点ゴールを狙うフォルトウナは、金城(80分)、ジェロム・キーゼヴェッター(81分)、リッター(83分)がそれぞれ狙うも、どれも相手ゴールマウスは捉えきれず。すると逆に85分、カウンターから三笥薫に追加点を奪われ、試合はそのまま1-3の敗戦でタイムアップとなった。





多くの日本チームがフォルトゥナと対戦。

Viele japanische Teams zu Gast bei Fortuna

この春休みは全日本大学選抜だけでなく、多くのチームが日本から来独し、フォルトゥナと親善試合を行った。伊藤遼哉擁するU19チームはJFAアカデミー福島U18と対戦し、7-2の大勝を収めた一方、清水エスパルスU18との一戦ではU18チームとのミックスチームで挑んだが、3-2で競り負けることとなった。なおそのU18チームは単独で大阪府選抜と対戦し、5-1の勝利を収めている。

アペルカンプ真大所属のU17チームは千葉県八千代高校と対戦し、試合終盤に連続得点を挙げて4-1の勝利を収めた。なおアペルカンプはU17日本代表のアメリカ遠征に参加中だったため、この試合には出場しなかった。また仙台育英高校を迎え撃ったU16チームは前半に2点を先行されるも、ハーフタイムまでに2点を奪い返す展開。後半は一進一退となったがどちらにも決勝ゴールは生まれず、試合は2-2でタイムアップとなった。さらにルーヴェン高崎U15チームをゲストに迎えたU15チームは、U14チーム所属の選手とテスト生も数人出場したが、後半に大量得点を挙げることに成功し、7-0の大勝を収める結果となっている。



- ➡ 3月07日(火) 13:00 フォルトゥナ(トップチーム) 1-3 全日本大学選抜
- ➡ 3月07日(火) 19:00 フォルトゥナU16 2-2 仙台育成高校
- ➡ 3月08日(水) 18:30 フォルトゥナU19 7-2 JFAアカデミーU18
- ➡ 3月20日(月) 19:00 フォルトゥナU19/U18 3-2 清水エスパルスU18
- ➡ 3月20日(月) 19:00 フォルトゥナU17 4-1 八千代高校
- ➡ 3月26日(日) 11:00 フォルトゥナU18 5-1 大阪府選抜
- ➡ 3月29日(水) 19:00 フォルトゥナU15 7-0 ルーヴェン高崎U15

U19デュッセルドルフ国際サッカー大会

U19 Champions Trophy

毎年イースター休暇にデュッセルドルフで行われる国際サッカー大会U19チャンピオンズトロフィーが今年も開催され、全日本高校サッカー選抜を含む国際色豊かなチームが名を連ねた。2012年の優勝チームであるフォルトゥナU19チームは、新しく東洋タイヤ社のロゴがプリントされたユニフォームを纏って参戦したが、残念ながら今年はグループリーグで敗退となった。



今年で55回目を数えるU19チャンピオンズトロフィーは、多くの未来のスターの登竜門とも言うべき大会。今年も主催クラブのBV04の他、ボルシアMG、FSVマインツ、フォルトゥナのドイツ勢に加え、同大会3連覇中で、また今年のUEFAユースリーグを制したザルツブルク(オーストリア)と、同様に準優勝となったベンフィカ・リスボン(ポルトガル)が出場しただけでなく、リヴァプール(イングランド)、FCノアシュラン(デンマーク)、クルゼイロ(ブラジル)、そして日本から全日本高校選抜など、世界中から未来のタレントたちが集結した。

グループリーグの初戦で高校選抜と対戦したフォルトゥナは、伊藤遼哉が先発出場。すると早速鋭いスルーパスでチャンスを出すなど、攻撃陣を牽引する。しかし町田修斗のミドルシュートで失点を許すと、さらにコーナーキックから三国ステビアエブスに追加点を奪われる展開に。後半にはU17チーム所属のアペルカンブ真大も出場し、反撃の機会をう

かがったが、結局試合はそのまま0-2でタイムアップとなった。

その後もフォルトゥナは、ザルツブルク(0-2)とノアシュラン(0-3)に連敗し、グループリーグ敗退が決定してしまう。それでも伊藤とアペルカンブが揃って出場した4戦目のマインツ戦では、セットプレーからモリッツ・モンタークがヘディングゴールを決めて、リードを奪うことに成功する。その後もアペルカンブが鋭いスルーパスで攻撃を演出するなど、強豪マインツを相手に一歩も引かない戦いを見せ、最後までこのリードを守り切ったフォルトゥナが、今大会初勝利を挙げることとなった。

ザルツブルクが4連覇達成。

それぞれのチームがグループリーグで4試合を戦った結果、グループ1からは1位ザルツブルクと2位ノアシュランが、またグループ2からは1位でボルシアMGと2位リヴァプールが準決勝進出を果たした。そしてそれぞれ接戦を制して決勝に進出したのは、ボルシアMGとザルツブルクの2チーム。決

勝戦は2015年と同じ対戦カードとなったが、結局リベンジに挑んだボルシアMGを2-1で破ったザルツブルクが、この大会での4連覇を達成することとなった。なお5位決定戦に回った高校選抜は、クルゼイロに3-0の快勝を収め、同大会を終了している。

大会の主な結果

フォルトゥナ 0-2 高校選抜
 フォルトゥナ 0-2 ザルツブルク
 フォルトゥナ 0-3 FCノアシュラン
 フォルトゥナ 1-0 FSVマインツ

準決勝:

ザルツブルク 1-0 リヴァプール
 ボルシアMG 0-0(PK:3-0) FCノアシュラン

5位決定戦:

高校選抜 3-0 クルゼイロ

3位決定戦:

リヴァプール 1-2 FCノアシュラン

決勝戦:

ザルツブルク 2-1 ボルシアMG

日本デー 2017

Fortuna meets Japan

TOYO TIRES
driven to perform



今年で16回目を数えたデュッセルドルフの日本デーは、快晴にも恵まれて多くの人で賑わうことに。その中でもひと際目立つ真っ赤なフォルトゥナテントが今年も登場し、多くの人たちが立ち寄りスポットとなった。

今年の“フォルトゥナコーナー”では、プレミアムパートナーの東洋タイヤ社が子供用のTシャツ

1500枚を配布し、お土産として人気を博したほか、子供のためのドリブルチャレンジをオーガナイズし、多くのキッズがこのタイムトライアルに挑戦した。チャレンジに成功した子供たちのためにサッカーボール100個が用意されていたが、16:00前にはすべてのボールがなくなるほどの大盛況だった。

さらには金城ジャスティン俊樹



も会場に駆けつけ、多くのファンたちのためにサイン会を開催。こちらでも大好評となり、ジャスティンも写真撮影にも応じるなど、終始笑顔のイベントとなった。なお、このチャレンジの参加費1ユーロは、当日に募金活動を行ったフォルトゥナのソーシャルパートナーであるaction medeorへ寄付となっている。

offset cmyk
dtp proof **schmuckfarben**
photoshop fünf+lack FSC **illustrator**
prepress scannen bogen
falzen kreuzbruch
nutzen **einfarbig** **indesign**
vierfarbig kleben **quark**
klimaneutral retusche
klammern ctp **andruck**
zickzackfalz **digitaldruck**

CLASEN GmbH
ihr printmedienpartner in düsseldorf



Geschäftsführung: Michael Klein & Achim Krause

WITH AI, THE FUTURE IS OPEN TO SUGGESTIONS

未来は、オープンだ。アイデアで変えられる。

人類はさまざまな道具を使い、暮らしを豊かにしてきました。
そして今、日立のAI(人工知能)という道具を手にすることで、
ビジネスが生まれ変わります。すでに多くの分野で成果をあげ、
生産性の向上やコスト削減、組織の活性化を実現しています。
人が思いもよらない解決策で、設定した目的を達成する。
そんな日立のAIを活用すれば、可能性はどこまでも広がります。

social-innovation.hitachi

Hitachi Social Innovation

